

定例記者会見資料

○日 時	平成26年2月12日(水) 13時30分～
○会 場	島根県立大学 本部棟2階 特別応接室
○会 見 者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	<p>【3キャンパス共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜・一般入試の志願状況について……………〔資料1〕 ・「縁結びプラットフォーム運営委員会設立総会」の開催について……………〔資料2〕 ・地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)全域フォーラムの開催について……………〔資料3〕 <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回「地域振興に関する提言を含む 優秀卒業研究・論文の発表会」の開催について……………〔資料4〕 ・異文化理解研修(ハワイ)の実施について……………〔資料5〕 ・海外企業研修壮行式の開催について……………〔資料6〕 ・北京大学国際関係学院・島根県立大学 合同国際シンポジウムの開催について……………〔資料7〕 ・「平成25年度北東アジア地域研究センター市民研究員と 大学院生の共同研究成果報告会」の開催について……………〔資料8〕
○資料提供 項 目	<p>【3キャンパス共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業式、修了式について……………〔資料9〕 ・島根県社会福祉協議会との災害ボランティア に関する協定の締結について……………〔資料10〕 ・「きっかけバス47」への学生の参加について……………〔資料11〕 ・浜田市、益田市との共同研究成果報告会について……………〔資料12〕 ・学長の訪米について……………〔資料13〕 <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期日本語研修・美川小学校との交流事業について……………〔資料14〕 <p>【出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回タウンミーティング in 津和野の開催について……………〔資料15〕 <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度前期科目等履修生・聴講生の募集について……………〔資料16〕
○行事予定	<p>【各種行事等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀卒業研究・論文発表会 【浜田キャンパス】……………2月14日(金) ・北京シンポジウム 【浜田キャンパス】……………2月14日(金) ・渡辺有二教授退職記念講義 【浜田キャンパス】……………2月18日(火) ・第3回タウンミーティング in 津和野【出雲キャンパス】……………3月1日(土) ・卒業式・修了式 【出雲キャンパス】……………3月13日(木) <p>【入試日程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜(健康栄養/保育/総合文化)【松江キャンパス】……………2月15・16日(土・日) ・一般選抜(総合政策学部) 【浜田キャンパス】……………2月25日(火) ・一般入試(看護学部) 【出雲キャンパス】……………2月25・26日(土・日)

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。
なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 総務課 TEL 0855-24-2200
出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200
松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525



※次回の定例記者会見は 平成26年3月14日(金) 13:30から開催します。

マスコットキャラクター「オロリン」です。

平成26年度島根県立大学総合政策学部一般選抜の志願者状況のお知らせ及び前期日程試験の報道対応について

島根県立大学総合政策学部では平成26年2月25日(火)に前期日程試験、3月12日(水)に後期日程試験を実施いたします。志願者の状況及び報道対応については下記のとおりとなっております。(後期日程試験の取材につきましては、別途お知らせいたします。) よろしくお申し上げます。

1. 募集人員と志願者数

区 分	募集人員	志願者数								
		県内			県外			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
一般選抜(前期日程)	80	35	19	54	363	134	497	398	153	551
一般選抜(後期日程)	20	25	17	42	161	79	240	186	96	282
計	100	60	36	96	524	213	737	584	249	833

(参考) 過去の志願者数は以下のとおりです。

H25年度実績

区 分	募集人員	志願者数								
		県内			県外			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
一般選抜(前期日程)	80	36	26	62	318	129	447	354	155	509
一般選抜(後期日程)	20	31	25	56	234	128	362	265	153	418
計	100	67	51	118	552	257	809	619	308	927

	H22	H23	H24
一般選抜(前期日程)	511名	517名	646名
一般選抜(後期日程)	310名	438名	282名
合計	821名	955名	928名

2. 出願期間

平成26年1月27日(月)から2月5日(水)まで(当日消印有効)

3. 一般選抜試験の概要

平成16年度入試から個別試験を導入しましたが、個別試験の受験については、受験の有無を選択し、受験しない場合は大学入試センター試験の成績のみ、受験する場合は大学入試センター試験の成績及び個別試験の成績を利用することとしています。

なお、個別試験の受験申込者が受験しなかった場合は、大学入試センター試験の成績のみを利用します。

個別試験は、数学、英語、世界史、国語、日本史から1科目を事前に選択して受験します。このうち国語と日本史については平成19年度入試からの導入です。

4. 試験日程等（前期日程）

- 個別学力試験を受験する場合

日 時：平成26年2月25日（火）

場 所：浜田会場（島根県立大学浜田キャンパス）
広島会場（代々木ゼミナール広島校）

（世界史・日本史）

- ・受験者入室 9:20～10:00
- ・注意事項説明 10:00～10:20
- ・試験 10:20～11:50

（英語）

- ・受験者入室 12:00～12:40
- ・注意事項説明 12:40～13:00
- ・試験 13:00～14:30

（数学・国語）

- ・受験者入室 14:40～15:10
- ・注意事項説明 15:10～15:30
- ・試験 15:30～17:00

5. 取材会場及び取材対象

- ・浜田会場：日本史試験（島根県立大学講義研究棟）
- ・広島会場：日本史試験（代々木ゼミナール広島校）

6. 取材上の注意事項

・取材を希望される報道機関は、2月25日（火）の9時50分に、浜田会場の場合は本部棟1F玄関ロビーに、広島会場の場合は代々木ゼミナール広島校ロビーに、ご集合ください。

- ・試験室内の取材時間は、10時00分から10時10分までとします。
- ・試験前の受験生への個別インタビューはお控えください。
- ・試験室内での取材は、映像及び写真撮影とします。
- ・受験者本人が特定される撮影は避けてください。
- ・その他取材に当たっては、係員の指示にしたがってください。
- ・世界史・日本史の試験問題は、12時10分以降に集合場所にてお渡ししますので、ご希望の場合は、お集まりください。その他の教科の試験問題については、各教科の試験終了20分後を目途にお渡しする予定です。

7. 前期日程個別試験受験者数の発表

平成26年2月25日（火） 17時以降

8. 今後の予定

（前期）

合格発表日 平成26年3月5日（水）午前10時

入学手続期間 平成26年3月6日（木）～3月13日（木）

9. 当日の取材対応担当者

（浜田会場）

島根県立大学教育研究支援部長 齋藤 裕幸

（広島会場）

島根県立大学アドミッション室長 的場 好信

以上

島根県立大学看護学部 平成26年度入学者選抜 志願者等の状況について

1. 募集人員と志願者数

※看護学部 一般入試（塗り潰し部分） 願書締切2月5日（水）消印有効

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
一般入試	35 ※1	216		
推薦入試（一般）	40 ※2	53	53	33
推薦入試（専門・総合学科）	5名以内	11	11	5
推薦入試（地域特別）	2名以内	3	3	2
社会人・学士入試	5	11	8	5
帰国子女入試	1名以内	0	—	—
私費外国人留学生入試	1名以内	1	1	0
合計	80	295	76	45

※1「一般入試」の募集人員には、「帰国子女入試」及び「私費外国人留学生入試」の募集人員を含みます。

※2「推薦入試（一般）」の募集人員には、「推薦入試（専門高校・総合学科卒業生）」及び「推薦入試（地域特別）」の募集人員を含みます。

2. 昨年の状況（参考）

選抜区分	志願者数	受験者数	合格者数
一般入試	277	230	42
推薦入試（一般）	47	47	33
推薦入試（専門・総合学科）	7	7	5
推薦入試（地域特別）	3	3	3
社会人・学士入試	11	11	5
帰国子女入試	0	—	—
私費外国人留学生入試	0	—	—
合計	345	298	88

3. 入試当日の取材について

取材を希望される報道機関は入試日の前日までに担当者あてご連絡ください。

平成26年度島根県立大学短期大学部

一般選抜（健康栄養学科・保育学科・総合文化学科 I 日程）の志願状況について

- 試験日 平成26年2月15日（土）
- 個別学力試験科目 健康栄養学科 総合問題
 保育学科 小論文
 総合文化学科 面接
- 入学定員・募集人員・志願者数等

学科	選抜区分		入学定員	募集人員 (a)	志願者数 (b)	受験者数	合格者数	志願倍率 (b/a)
健康栄養学科	一般選抜		40	30	90	-	-	3.0
保育学科	一般選抜		50	28	116	-	-	4.1
総合文化学科	一般選抜	I 日程	140	35	156	-	-	4.5

4 試験日程

【健康栄養学科及び保育学科】

試験会場開扉	9:00
受験者試験室入室	9:00～9:45
連絡注意	9:45～10:00
試験	10:00～11:30

【総合文化学科】

試験会場開扉	9:00
面接試験控室入室	9:00～9:45
連絡注意	9:45～10:00
面接	10:00～13:00
面接試験控室入室	13:15～13:45
連絡注意	13:45～14:00
面接	14:00～18:00頃

- 合格発表 平成26年2月28日（金）午後1時

6 参考

昨年度（平成25年度入学者選抜）の志願状況

学科	選抜区分		入学定員	募集人員 (a)	志願者数 (b)	受験者数	合格者数	志願倍率 (b/a)
健康栄養学科	一般選抜		40	30	84	78	41	2.8
保育学科	一般選抜		50	28	114	106	44	4.1
総合文化学科	一般選抜	I 日程	140	35	132	72	59	3.8

【試験当日の取材に当たってのお願い】

- 事務室教務学生課で資料と腕章をお渡しします。取材時は、腕章を着用してください。
- 撮影を許可する試験室は、体育館1階の研修室です。記者の皆さんの試験室への立ち入り撮影は、午前9時45分から試験開始直前の9時55分までの10分間とします。
- 試験室内での撮影は、係員の指示に従って、受験生の後方から撮影してください。
- 受験者数が確定するのは、16時頃となります。

平成26年度島根県立大学短期大学部

一般選抜入学者選抜試験（総合文化学科Ⅱ日程）の選抜結果について

- 1 試験日 平成26年1月25日（土）
- 2 選抜方法 国語・英語・小論文
- 3 合格者数等

学科	選抜区分		入学定員	Ⅱ日程 募集人員 (a)	志願者数	受験者数 (b)	合格者数 (c)	受験倍率 (b/a)	実質倍率 (b/c)
	一般選抜	Ⅱ日程							
総合文化学科	一般選抜	Ⅱ日程	140	35	100	99	64	2.8	1.5

- 4 合格発表 平成26年2月7日（金）13:00
- 5 参考

昨年度（平成25年度）の志願状況

学科	選抜区分		入学定員	Ⅱ日程 募集人員 (a)	志願者数	受験者数 (b)	合格者数 (c)	受験倍率 (b/a)	実質倍率 (b/c)
	一般選抜	Ⅱ日程							
総合文化学科	一般選抜	Ⅱ日程	140	35	97	97	77	2.8	1.3

平成 26 年 2 月 12 日（水）
島根県立大学（浜田キャンパス）
事務局 地域連携課
担当者：榎野・竹口
電 話：0855-24-2396

「縁結びプラットフォーム運営委員会設立総会」の 開催について

1 設置目的

縁結びプラットフォーム運営委員会は、平成 25 年度に採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に関して、地域と共に将来を担う人材を共育し、住み良い地域を共創し、持続可能な共生社会の実現を目指す「縁結びプラットフォーム」において、地域課題解決に向けた取組を推進することを目的とし設置するものです。

2 構成

当該運営委員会は、連携する自治体、経済団体、NPO 法人及び公立大学法人島根県立大学等から選出された委員をもって構成いたします。（40 名程度）

3 日時

平成 26 年 2 月 21 日（金） 10:00～11:30

4 会場

島根県立大学 浜田キャンパス交流センター研修室

5 主催

公立大学法人島根県立大学

6 主な議事内容

- ・規約（案）について
- ・体制と役員（案）について



地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)全域フォーラムの開催について

日時: 平成26年2月21日(金)13:30~17:30
 会場: 島根県立大学 浜田キャンパス 講堂

第I部

13:00-13:15	開会のあいさつ	公立大学法人島根県立大学 理事長 本田 雄一
13:15-14:00	講演「産学連携から社会連携へ -グローバルな潮流からCOCを捉え直す-」	公立はこだて未来大学 社会連携センター教授 田柳 恵美子
<しまね地域共育・共創研究の成果報告>		
14:00-14:20	「地域資源を保育教育課程に生かす『ふるさと教育』研究」	島根県立大学短期大学部 副学長・教授 山下 由紀恵 (松江キャンパス)
14:20-14:40	「エゴマの化粧品オイルとしての6次産業化の可能性 - 邑智郡川本町特産品エゴマオイルの開発 -」	島根県立大学 副学長・教授 山下 一也 (出雲キャンパス)
14:40-15:00	「島根県の森林価値の再評価: CO ₂ オフセットビジネスについて」	島根県立大学 准教授 林田 吉恵 (浜田キャンパス) 島根県立大学 講師 豊田 知世 (浜田キャンパス)

15:00-15:20 - 休憩 -

第II部

<パネルディスカッション>		
15:20-16:30	「島根県立大学3キャンパスの総合力と地域課題 - 共通課題への対応と大学の役割 -」	
	○パネリスト	
	益田市市民活動推進協議会 会長	吉田 篤志
	株式会社オーサン 代表取締役会長	島田 義仁
	島根県浜田保健所 総務保健部長	榎 伸夫
	島根県立大学短期大学部 副学長・教授	山下 由紀恵 (松江キャンパス)
	島根県立大学 副学長・教授	山下 一也 (出雲キャンパス)
	島根県立大学 講師	豊田 知世 (浜田キャンパス)
	○コメンテーター	
	公立はこだて未来大学 社会連携センター教授	田柳 恵美子
	○コーディネーター	
	公立大学法人島根県立大学 理事長	本田 雄一
16:30-17:00	質疑応答	
17:00-17:15	アンケート調査結果報告	島根県立大学 准教授 地域連携推進センター 副センター長 田中 恭子 (浜田キャンパス)
17:15-17:30	閉会のあいさつ	島根県立大学 教授 地域連携推進センター長 林 秀司 (浜田キャンパス)

<ポスターセッション>

「石州左官の故郷である大田市および江津市の「饅絵マップ」制作」 井上 厚史 教授 (浜田キャンパス)
 「産業観光の推進による観光振興の可能性」 久保田 典男 准教授 (浜田キャンパス)
 「学生が作る学生のための公共交通の利用促進を目的とした情報誌の制作」 松田 善臣 准教授 ゼミ (浜田キャンパス)

〔大学COC事業〕

地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム

第1回

全域フォーラム

日時 平成26年2月21日(金) 13:00~17:30

会場 島根県立大学 浜田キャンパス 講堂

本学では、文部科学省平成25年度「地(知)の拠点整備事業」により、地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る場である「縁結びプラットフォーム」を構築し、浜田・出雲・松江キャンパスの専門性と総合力を活かし、地元自治体や企業・団体、NPO等と協働して、地域に開かれた大学として地域社会へ貢献することを目指します。今回のフォーラムでは、公立はこだて未来大学社会連携センターの田柳恵美子教授をお招きし、大学の地域貢献の在り方についてご講演いただき、併せて本学の平成25年度研究成果報告、パネルディスカッションを行います。

<プログラム>

13:00 ~ ■開会

13:15 ~ ■基調講演

『産学連携から社会連携へ

ーグローバルな潮流からCOCを捉え直すー』

公立はこだて未来大学

社会連携センター 田柳恵美子教授

14:00 ~ ■研究成果報告

山下由紀恵副学長、山下一也副学長、豊田知世講師ほか

15:20 ~ ■パネルディスカッション

『島根県立大学3キャンパスの総合力と地域課題

ー共通課題への対応と大学の役割ー』

○コーディネーター

本田雄一学長

○パネリスト(予定)

吉田篤志(益田市市民活動推進協議会 会長)

島田義仁(株式会社オーサン 代表取締役会長)

山下由紀恵副学長、山下一也副学長、豊田知世講師

○コメンテーター

田柳恵美子教授

17:30 ■閉会

入場
無料



<お申込・お問合せ>

お名前、ご所属、ご連絡先を下記までお知らせください。

◆島根県立大学 事務局 地域連携課

e-mail: tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

tel: 0855-24-2396

fax: 0855-24-2208

主催：公立大学法人島根県立大学

FAX
0855-24-2208

島根県立大学 事務局 地域連携課 あて

全域フォーラム(2/21(金))について、FAXにてお申しいただける場合は、下記にご記入いただき、2/12(水)までに、大学事務局地域連携課あてに送信をお願いします。

貴団体名			
ご住所 (連絡先)	〒		
	TEL :	()	
ご所属・ご役職	ご氏名	備考	

※今回ご記入いただいた個人情報は、当該事業の実施以外の目的で使用することはありません。

地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム 第1回 全域フォーラム

日時：平成26年2月21日(金) 13:00~17:30

会場：島根県立大学 浜田キャンパス 講堂

(お問合せ) 島根県立大学

事務局地域連携課 TEL:0855-24-2396 担当：榎野・竹口

第 11 回「地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会」の開催について

1. 目的

今春島根県立大学学部生、大学院修了生が、地域の皆様のご支援により 4 年間（あるいは 2 年間）の学生生活を終え、卒業する予定です。この間に多くの学生が、地域において勉強し、住民の皆様にご指導をいただきました。

卒業予定の学生が作成した卒業研究・論文には、地域振興や地域活性化に関するテーマが多く取り上げられています。研究論文の作成にあたり、これまでご支援・ご指導をいただいた地域の皆様へ感謝の気持ちを込めて発表会を開催いたします。

2. 日時

平成 26 年 2 月 14 日 (金) 9:30～12:00

3. 会場

島根県立大学 講義研究棟 大講義室 1

4. 主催

島根県立大学

5. 協賛

浜田市

6. 発表内容 5本

- ・疎開保険制度の拡充と適用 一智頭町と比べる佐用町での制度適用一
- ・石見銀山の観光資源の保存と活用
- ・隠岐諸島の離島航路の維持方策と地域振興
- ・「古地区から導く浜田の都市計画の推移」
- ・賢く残せ 石見の公共交通～石見新交通スタイルの提案～

7. 各賞

- ・奨励賞 12 名
- ・浜田市長賞 1 名
- ・COC (地(知)の拠点事業) 特別賞 1 名 (今年度からの新規)

8. 参加申込等

どなたでも参加いただけます。(事前申込不要・参加無料)

9. その他

- ・第 1 期生を送り出した平成 15 年度からこの発表会を開催し、今年で 11 回目となります。
- ・発表の他に会場内で論文をまとめたポスターを掲示する予定です。

平成 26 年 2 月 12 日
島根県立大学 浜田キャンパス
〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
TEL0855-24-2213 FAX0855-23-7352
Mail kyoumu@admin.u-shimane.ac.jp
担当：教務学生課 中村

島根県立大学「異文化理解研修（ハワイ大学）」の実施について

「異文化理解研修」は外国語運用能力の向上を図るとともに、研修国の社会・文化・歴史等を理解することにより学生の国際感覚を涵養し、国際人としての自己認識を深化させることを目的として実施するもので、本学カリキュラムの中で重要な科目のひとつです。今年度も昨年 8 月の夏季休業期間を中心に、アメリカ、中国、韓国、ロシアの 4 か国で実施し、多くの学生が語学学習、社会・文化学習、地域市民との交流などに参加しました。

なお、今年度からアメリカのハワイ大学が新たな研修先として加わりました。今年度は 15 名の学生が参加し、ハワイ大学において 4 週間の研修プログラムを受講します。ハワイ大学での研修は他の大学での研修と異なり、春季休業期間に実施されます。

記

1. 研修先

University of Hawai'i at Mānoa Outreach College
2500 Campus Road · Honolulu, HI 96822
<http://www.outreach.hawaii.edu>

2. 研修内容

- (1) 語学学習時間：3 時間／1 日（実用英語：会話、文法、読解）
- (2) 地域文化学習：ハワイの文化（音楽、言語と文化、生活習慣等）
- (3) 現地見学・課外授業

見学予定先：Polynesian Cultural Center, Iolani Palace, Hawaii Plantation Village,
Japanese Cultural Center, Pearl Harbor 等

なお、研修期間中は大学近郊の家庭でホームステイを行います。

3. 研修日程

平成 26 年 2 月 22 日（土）～3 月 23 日（日）

4. 参加人数

15 名（男子学生 5 名、女子学生 10 名）

5. その他

- ・参加学生には本学より 9 万円の海外研修奨学金が給付されます。
- ・研修の効果測定のため、参加学生には出発前と帰国後の 2 回の TOEFL 受験を義務付けています。

平成 26 年 2 月 12 日
 島根県立大学 浜田キャンパス
 キャリア支援室 北村真紀
 〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
 TEL : 0855-24-2202 FAX : 0855-24-2387

海外企業研修の実施

本学の 1～3 年生を対象に、「海外企業研修 (Global business study tour)」を実施する。
 インド共和国コースと大韓民国コースの 2 コースを用意し、グローバルに展開する企業への訪問、現地大学生との交流をおこなう。

躍動するアジアの成長を体感し、自己を取り巻く環境等を見据えた上で主体的に進路を選択できる能力を育成することを狙いとしている。ひいては、国際化の進む社会の様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成を目指す。

参加者	インドコース : 15 名	1 年生 : 8 名	2 年生 : 6 名	3 年生 : 1 名
	韓国コース : 5 名	1 年生 : 2 名	2 年生 : 3 名	3 年生 : 0 名

*各コースに松江キャンパスから 2 名ずつ参加

記

インド共和国コース

- ・研修期間：平成 26 年 2 月 23 日～平成 26 年 3 月 1 日 (7 日間)
- ・研修地：バンガロール
- ・主な訪問先：
 - Infosys (インド最大級 IT 企業)・TOYOTA KIRLOSKAR MOTORS (TOYOTA 現地法人)
 - ・IIMB (インド経営大学院)・AIMS (経営学、IT、ホテル・観光関連の学位取得が可能)

大韓民国コース

- ・研修期間：平成 26 年 3 月 9 日～平成 26 年 3 月 14 日 (6 日間)
- ・研修地：ソウル特別市
- ・主な訪問先：西大門区庁・柳韓大学校 (2/5 現在で確定している訪問先) ほか。

*訪問先を選定中。

壮行会

- ・日 時：平成 26 年 2 月 17 日 (月) 10:30～10:50
- ・場 所：本部棟 2 階 会議室
- ・出席者：本田学長、海外企業研修参加者(学生、引率者)、教職員の皆様

平成26年2月12日
島根県立大学浜田キャンパス
事務局国際交流課 大塚大輔
TEL (0855) 25-9063

北京大学国際関係学院・島根県立大学合同国際シンポジウムの開催について

この度、交流提携校である北京大学国際関係学院と、通算5回目となる合同国際シンポジウムを別添パンフレットのとおり開催します。

今回のシンポジウムには、北京大学国際関係学院から3名の研究者と中国人民大学から1名の研究者を招きます。また、宇野重昭名誉学長をはじめ、本学教員を含む国内の4名の研究者が報告を行う予定です。

開学以来10年以上にわたり学術研究交流を進めてきた北京大学国際関係学院と、中国式発展の独自性と普遍性について活発な議論を行います。

下記内容につきまして学生、一般市民に公開して開催いたします。なお、本シンポジウムは、主として研究者による専門的な討論を行うため、各セッション中に参加者からの質疑応答の時間は設けておりませんので、予めご了承ください。

記

1. 日 時 :平成26(2014)年2月14日(金) 9:30~18:00
2. 会 場 :島根県立大学浜田キャンパス
交流センター2Fコンベンションホール
3. 主 催 :島根県立大学・北京大学国際関係学院
4. 共 催 :島根県立大学北東アジア地域研究センター
5. 参加料:無料

※当日は日本語・中国語による同時通訳があります。

北京大学・国際関係学院との交流について

【協定締結年月日】 平成 12 (2000) 年 10 月 8 日 (於：北京市)

【北京大学・国際関係学院の概要】

所在地 北京市

創立年 1996 年[1898 年※] 学生数 約 1,000 名 [約 32,000 名※]

学部等 3 専攻 (国際政治、外交学・外事管理、国際政治経済学) [35 学部※]

[※]は北京大学

北京大学は、清華大学と並ぶ中国の名門大学で、特に人文系、基礎理科系においては中国最高峰と言われている。国際関係学院は、社会科学部に属する単科大学 (学部) で、学生・教員数は本学浜田キャンパスとほぼ同じ規模である。

【交流実績・予定】

2002 年度：共同国際シンポジウムの開催 (10 月、於県立大学)

2002～2007 年度：異文化理解研修の実施

(8～9 月、2003 年度は 2～3 月、於北京大学)

2007 年度：合同国際シンポジウムの開催 (6 月、於県立大学)

2009 年度：合同国際シンポジウムの開催 (11 月、於北京大学)

2011 年度：合同国際シンポジウムの開催 (10 月、於県立大学)

2013 年度：合同国際シンポジウムの開催 (2 月、於県立大学)



北京大学



島根県立大学

THE SCHOOL OF INTERNATIONAL STUDIES PEKING UNIVERSITY
THE UNIVERSITY OF SHIMANE
JOINT SYMPOSIUM

北京大学国際関係学院・島根県立大学 合同国際シンポジウム

中国式発展の独自性と普遍性

—「中国模式」の提起をめぐって—

日時 2014 **2.14** **金** 9:30~18:00

場所 島根県立大学 交流センター2階
コンベンションホール

主催 島根県立大学・北京大学国際関係学院

共催 島根県立大学北東アジア地域研究センター

問合せ先 島根県立大学 事務局国際交流課
TEL:0855-25-9063 FAX:0855-22-2208
E-mail: kokusai@admin.u-shimane.ac.jp

中国式発展の 独自性と普遍性

—「中国模式」の提起をめぐる—

趣意書

近年の国際社会における中国の影響力の拡大は、相矛盾する方向性を内包させたものとなっている。一つは、1980年代以降の改革開放政策への転換に始まる近代化とその後の急速な経済成長が、平和的な国際環境のなかで達成されたことが示すように、国際協調の枠組みを求めていることである。もう一つは、その経済成長が総合的な国力の増強をもたらし、既存の国際秩序を変革する動きにもつながり、中国の周辺諸国が「脅威」として受けとめる事態も生まれたことである。このように中国に対する認識は、両極に分岐しつつあるが、これに関する論争が、それぞれのイメージを自己増殖させ、理性的な対話の可能性を狭めてしまう事態も生まれてしまった。

このような状況のなかで、今後の中国の動向を見極めるためには、その現実を内在的視点から正確に把握する必要性がより一層求められる。また、この点を考察する際、「中国模式」に関する論争をみることは、一つの視点を提示する。「中国模式」は、近年の中国の台頭を背景にして、中国独自の発展パターンがそれを支えていることを主張する。それは、共産党による強力なリーダーシップ、社会主義市場経済体制で実施される国家主導の市場メカニズム、急激に変化し続ける政治社会の新たな公共性を創造する試み、これらを支える中国独自の価値体系の強調などにあらわれ、さらには国際的なモデルにもなり得るとして「北京コンセンサス」という言葉も広く知られるに至った。これらは、現在の台頭する中国の一つの実態をあらわしている。

他方、近年、「中国模式」の限界性についても、多く指摘されるようになった。それは、縁故意識、官僚の腐敗問題、「国進民退」にあらわされる国有企業の特権化と民間企業の後退、政治主導の経済活動が有する経済的合理性の欠如、格差社会の拡大にみられる歪な発展などである。これらの諸問題は、「中国模式」が、党・国家が強いリーダーシップを発揮することによって比類のない経済・社会発展を可能とさせた一方、その成功と表裏一体を成すかのように中国社会の歪みを拡大させてしまったことを明らかにした。その結果、「中国模式」の独自の発展パターンを強調するのではなく、むしろ民主主義の導入による権力構造の是正、西欧諸国が先導する経済における民営化の促進、といった改革が求められるという意見も生まれた。

中国の歴史を顧みると、中国は王朝の交代を繰り返し、その断絶と連続のなかで、インド、イスラム諸国、ヨーロッパ諸国などの交流を通して、異文化との相互触発から自らの文化を再構築してきた。そのような歴史の巨視的視点からみるならば、20世紀終わりから急速に拡大深化しつつあるグローバル化の流れにおいても、中国はその独自性に立脚しながら、それに伴う諸問題を克服する方法を模索し続けるであろう。本シンポジウムでは、現在論争がくり広げられている「中国模式」を取り上げ、その中心的な論点である中国の独自性と普遍性に焦点を当て、その行方を考察する。

2014年1月15日

プロジェクト代表 江口 伸吾

Program

オープニング

- プロジェクト紹介（代表：江口 伸吾）
- 本田 雄一 島根県立大学学長挨拶

午前 基調講演

9:30~

- 基調講演1：唐 士 其 副院長（北京大学国際関係学院副院長）
「『中国模式』再考」
- 基調講演2：宇野 重昭 名誉学長（島根県立大学名誉学長）
「日本の内発的発展論から見る中国模式論
— グローバル化急進展の時代に —」
- 司 会：李 曉 東（島根県立大学NEARセンター長）

第1セッション 「中国における国家と市民社会」

12:40~14:30

- 報告者：楊 朝 暉（北京大学国際関係学院）
「中国社会の転換期における中国共産党の指導」
李 曉 東（島根県立大学）
「中国の『市民社会』をどのように語るか」
江口 伸吾（島根県立大学）
「現代中国の国家建設と『公民社会』のガバナンス
— 近代化のプロセスと基層社会の変容を焦点にして —」
- コメンテーター：滝口 太郎（東京女子大学）
- 司 会：村井 洋（島根県立大学）

第2セッション 「市場経済と格差」

14:40~16:00

- 報告者：唐 燕 霞（愛知大学）
「『中国模式』の特殊性と普遍性 — 労使関係の視点から —」
董 筱 丹（中国人民大学可持続発展高等研究院）
「1949年以来の中国都市・農村の市場化プロセス」
- コメントーター：林 裕明（島根県立大学）
- 司 会：木村 秀史（島根県立大学）

第3セッション 「共振する中国と国際社会」

16:10~17:30

- 報告者：梁 雲 祥（北京大学国際関係学院）
「『世界の中国』、それとも『中国の世界』か?」
佐藤 壮（島根県立大学）
「新興大国・中国と東アジア秩序
— 国内秩序と国際秩序の相互作用の観点から —」
- コメントーター：中園 和仁（広島大学）
- 司 会：福原 裕二（島根県立大学）

総 括 大芝 亮（一橋大学副学長）

17:35~

閉会の挨拶 江口 伸吾（プロジェクト代表）

*本シンポジウムは、主として研究者による専門的な討論を行います。
このため、各セッション中に参加者からの質疑応答の時間は設けていません。予めご了承ください。

基調講演



唐 士其 (とう しき) Tang Shiqi

北京大学国際関係学院副院長・教授。

北京大学国際政治系博士課程修了、博士。専門は、政治学。日本大学国際関係学部、東京大学法学部(教育部より派遣)、米国Kettering foundationなどの客員研究員を歴任。主な著書として、『国家と社会的関係』(北京大学出版社、1998年)、『美国政府と政治』(台湾揚知出版公司、1998年)、『西方政治思想史』(北京大学出版社、2002年)、『全球化と地域性』(北京大学出版社、2010年)などがある。



宇野 重昭 Uno Shigeaki

島根県立大学名誉学長・名誉教授、成蹊大学名誉教授。北京大学客座教授、復旦大学顧問教授、中国社会科学院日本研究所名誉研究員。

東京大学大学院社会科学研究所修了、社会学博士。専門は、東アジア国際政治史、国際関係論、中国地域研究。日本国際政治学会理事長(1986~88年)、日本学術会議第16・17期会員(1994~2000年)、公立大学協会会長(2005~07年)などを歴任。主な著書として、『20世紀の中国—政治変動と国際契機』(共編著、東京大学出版会、1994年)、『内発的発展と外向型発展—現代中国における交錯—』(共編著、東京大学出版会、1994年)、『北東アジア学への道』(国際書院、2012年)などがある。

第1セッション



楊 朝暉 (よう ちょうき) Yang Zhaohui

北京大学国際関係学院講師。

北京大学国際政治系修士課程修了。専門は、中国政治、中国共産党史研究。主な論著として、「西伯利亞遠東共和国と中国革命」(『江漢論壇』1986年(2))、「権威主義的終結と中国政治的漸進発展」(『国際政治研究』2013年(1)、北京大学、2013年)などがある。



李 曉東 (り きょうとう) Li Xiaodong

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部教授、同大学北東アジア地域研究センター長。

成蹊大学大学院法学政治学研究科博士後期課程修了、博士(政治学)。専門は、日中関係史、政治思想史。主な著書として、『近代中国における立憲構想—嚴復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想—』(法政大学出版局、2005年)、『転機に立つ日中関係とアメリカ』(共著、国際書院、2008年)、『中国政治体制100年—何が求められてきたのか』(共著、中央大学出版部、2009年)、『転形期における中国と日本—その苦悩と展望—』(共編著、国際書院、2012年)などがある。



江口 伸吾 Eguchi Shingo

島根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センターセンター長補佐。

成蹊大学大学院法学政治学研究科博士後期課程満期退学、博士(政治学)。専門は、現代中国政治。主な著書として、『中国農村における社会変動と統治構造—改革・開放期の市場経済化を契機として—』(国際書院、2006年)、『日中関係史 1972~2012 I 政治』(共著、東京大学出版会、2012年)、『転形期における中国と日本—その苦悩と展望—』(共著、国際書院、2012年)、『Minervaグローバル・スタディーズ3/中国がつくる国際秩序』(共著、ミネルヴァ書房、2013年)などがある。

第2セッション



唐 燕霞 (とう えんか) Tang Yanxia

愛知大学現代中国学部教授。日中社会学会理事。

立教大学大学院社会学研究科博士後期課程修了、博士(社会学)。専門は、社会学。主な著書として、『中国の企業統治システム』(御茶の水書房、2004年)、『グローバル化における中国のメディアと産業』(共編著、明石書店、2008年)、『転機に立つ日中関係とアメリカ』(共編著、国際書院、2008年)、『コーポレート・ガバナンスと企業倫理の国際比較』(共著、ミネルヴァ書房、2010年)、『チェンジン・チャイナの人的資源管理』(共著、白桃書房、2011年)、『転形期における中国と日本—その苦悩と展望—』(共著、国際書院、2012年)などがある。



董 筱丹 (とう しょうたん) Dong Xiaodan

中国人民大学可持續發展高等研究院講師。西南大学中国鄉村建設学院特別研究員、江蘇省常州市武進区嘉沢姫山書院理事。

中国人民大学博士課程修了、管理学博士。専門は、鄉村ガバナンス、鄉村建設、地域發展比較研究。「宏観経済波動と農村治理危機—關於改革以來『三農』与『三治』問題相關性的実証分析—」(『管理世界』、2008年(10))、「致貧的制度経済学研究:制度成本与制度収益の不对称性分析」(『経済理論と经济管理』、2011年(1))、「中国特色之工業化与中国經驗」(『中国人民大学学報』、2011年(1))、『解説蘇南』(共著、蘇州大学出版社、2011年)、『八次危機:中国的真實經驗1949-2009』(共著、東方出版社、2012年)などがある。

第3セッション



梁 雲祥 (りょう うんしょう) Liang Yunxiang

北京大学国際関係学院教授。北京大学国際関係学院博士課程修了、法学博士。中国中華日本学会理事、北京大学日本研究センター秘書長。

専門は、国際政治学、戦後日本政治外交、北東アジア地域研究。早稲田大学、日本大学、新潟大学、成蹊大学などで客員研究員を歴任。主な著書として、『后冷戦時代の日本政治、経済と外交』（北京大学出版社、2000年）、『日本外交と中日関係』（世界知識出版社、2012年）、『国際関係と国際法』（北京大学出版社、2012年）などがある。



佐藤 壮 Sato Takeshi

鳥根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センター研究員。

一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は、国際関係論、東アジア安全保障、アメリカの対アジア太平洋政策。主な著書として、『転機に立つ日中関係とアメリカ』（共著、国際書院、2008年）、『衝突と和解のヨーロッパ—ユーロ・グローバリズムの挑戦』（翻訳、ミネルヴァ書房、2007年）などがある。

総括



大芝 亮 Oshiba Ryo

一橋大学副学長、教授。

一橋大学大学院法学研究科博士後期課程退学。米国イェール大学Ph. D (政治学)。専門は、国際機構論。日本国際政治学会理事長 (2004~06年)などを歴任。主な著書として、『国際組織の政治経済学—冷戦後の国際関係の枠組み—』（有斐閣、1994年）、『国際政治学入門』（編著、ミネルヴァ書房、2008年）、『日本の国際政治学<2>/国境なき国際政治』（共編著、有斐閣、2009年）、『有斐閣コンパクト/平和構築・入門』（共編著、有斐閣、2011年）、『NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま』（共編著、ミネルヴァ書房、2013年）、『日本の外交<第5巻>/対外政策 課題編』（編著、岩波書店、2013年）などがある。

コメンテーター・司会者



滝口 太郎 Takiguchi Taro

東京女子大学現代教養学部国際社会学科国際関係専攻教授。

成蹊大学大学院法学政治学研究科政治学専攻修士課程修了。専門は、アジア国際関係論。主な著書として、『20世紀の中国—政治変動と国際契機—』（共著、東京大学出版会、1994年）、『現代中国の構造変動 [4] 政治—中央と地方の構図—』（共著、東京大学出版会、2000年）、『中国の安全保障政策について』（共著、平和・安全保障研究所、2008年）、『Minervaグローバル・スタディーズ3/中国がつくる国際秩序』（共著、ミネルヴァ書房、2013年）などがある。



村井 洋 Murai Hiroshi

鳥根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部教授、同大学北東アジア地域研究センター研究員。

成蹊大学大学院法学政治学研究科博士後期課程満期退学、博士 (政治学)。専門は、政治思想史、政治学、平和学。主な著書として、『北東アジア研究と開発研究』（共著、国際書院、2002年）、『西周と日本の近代』（共著、ベリかん社、2005年）などがある。



林 裕明 Hayashi Hiroaki

鳥根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センター研究員。

京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学、経済学博士。専門は、比較経済システム論、ソ連・ロシア経済論。主な著書として、『市場経済移行論』（共著、世界思想社、2002年）、『躍動する中国と回復するロシア—体制転換の実像と理論を探る—』（共著、高学出版、2005年）、『現代ロシア経済論』（共著、ミネルヴァ書房、2011年）などがある。



木村 秀史 Kimura Shushi

鳥根県立大学総合政策学部講師。

國學院大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士 (経済学)。専門は、国際金融論、国際通貨論。主な論著として、『国際通貨体制と世界金融危機—地域アプローチからの検証—』（共著、日本経済評論社、2011年）、『ユーロ危機の構造—域内経常収支不均衡の視点から—』（『総合政策論叢』第26号、鳥根県立大学総合政策学会、2013年）、『東アジアで機能主義的共存を模索する意義—機能主義から共同体へ—』（『國學院大学研究開発推進センター研究紀要』第7号、國學院大学研究開発推進センター、2013年）などがある。



中園 和仁 Nakazono Kazuhito

広島大学大学院国際協力研究科教授。

一橋大学大学院法学研究科公法専攻博士課程修了、法学博士。専門は、国際関係論。主な著書として、『香港をめぐる英中関係—中国の対香港政策を中心として—』（アジア政経学会、1984年）、『20世紀の中国—政治変動と国際契機—』（共著、東京大学出版会、1994年）、『香港返還交渉—民主化をめぐる攻防—』（国際書院、1998年）、『Minervaグローバル・スタディーズ3/中国がつくる国際秩序』（編著、ミネルヴァ書房、2013年）などがある。



福原 裕二 Fukuhara Yuji

鳥根県立大学大学院北東アジア開発研究科・総合政策学部准教授、同大学北東アジア地域研究センター副センター長。

広島大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了、博士 (学術)。専門は北東アジア国際関係史、朝鮮半島地域研究。主な著書として、『日本・中国からみた朝鮮半島問題』（共編著、国際書院、2007年）、『核拡散問題とアジア』（共著、国際書院、2009年）、『交渉する東アジア』（共著、風響社、2010年）、『たけしに暮らした日本人たち』（風響社、2013年）などがある。

「平成 25 年度北東アジア地域研究センター市民研究員と 大学院生の共同研究成果報告会」の開催について

北東アジア地域研究センターでは、北東アジア地域研究センター市民研究員（*）と本学大学院生が共通の関心分野について共同で取り組んだ研究成果の報告会を下記のとおり開催します。

広く一般の方にも公開しておりますので、興味のある方にご来場いただき、本学北東アジア地域研究センター市民研究員の活動の一端に触れていただきたいと思います。

記

1. 日 時 平成 26 年 3 月 1 日（土） 14:00～17:00
 （当日は寒くなることが予想されます。暖かい格好でお越しください。）
2. 場 所 島根県立大学交流センター 2F コンベンションホール
3. 報告内容（予定）
 - 1) 「モンゴル国の低学歴貧困家庭からみた現代モンゴル都市社会
 ー学歴と将来に関する親と子どもの期待を手がかりにー」
 [報告者] バダムサンブー・ヒシグスレン
 （北東アジア開発研究科 博士前期課程 1 年）
 岡崎 秀紀（市民研究員）
 - 2) 「大興安嶺におけるトナカイエヴェンキ人の生活変化と自意識に関する
 研究ー森林内外生活の変化と実態を中心にー」
 [報告者] ^{ハリナ}ハ麗娜（北東アジア開発研究科 博士前期課程 2 年）
^{こすがよしたけ}小菅良豪・若林一弘（市民研究員）
 - 3) 「中国朝鮮族における高齢者介護と家族・ジェンダー規範に関する社会
 学的研究ー中国黒竜江省穆稜市 A 鎮の高齢夫婦間介護を対象にしてー」
 [報告者] ^{そん みれい}孫 美玲（北東アジア開発研究科 博士前期課程 2 年）
 大橋美津子（市民研究員）
4. その他 事前申込不要 入場無料

*北東アジア地域研究センター市民研究員とは？

本学の北東アジア地域研究センター（NEAR センター）の研究活動に広く一般市民の参加を求め、地域の研究者や有識者との連携を強化することにより、NEAR センターの研究活動の活性化並びに大学院教育の充実を図ることを目的として、平成 18 年度から、創設したもので、全国的にも例のないユニークな制度です。

平成 26 年 2 月 12 日
島根県立大学浜田キャンパス
総務課 山口・澤井
TEL 0855-24-2200

島根県立大学 総合政策学部卒業証書授与式・大学院学位記授与式について

平成 25 年度の総合政策学部卒業証書授与式及び大学院学位記授与式を下記のとおり挙行いたしますのでお知らせいたします。

記

日 時 平成 26 年 3 月 19 日(水) 11:00～12:00 (卒業生入場 10:45 まで)

場 所 島根県立大学 浜田キャンパス講堂 (浜田市野原町 2433-2)

- 式次第
- (1) 開式の辞
 - (2) 卒業証書授与 (代表 1 名)
大学院学位記授与 (代表 1 名)
 - (3) 学長式辞
 - (4) 知事祝辞
 - (5) 来賓祝辞
 - (6) 卒業生謝辞
大学院修了生謝辞
 - (7) 島根県立大学賞授与
 - (8) 大学歌斉唱
 - (9) 閉式の辞

その他

- ・当日午前 10 時から関係資料を講堂受付にて配布します。

島根県立大学短期大学部出雲キャンパス卒業証書・修了証書授与式について

平成 25 年度の看護学科卒業証書授与式及び専攻科修了証書記授与式を下記のとおり挙行いたしますのでお知らせいたします。

記

日 時 平成 26 年 3 月 13 日(木) 10:30～11:50 (卒業生入場 10:15 まで)

場 所 島根県立大学 出雲キャンパス体育館 (出雲市西林木町 151)

- 式次第
- (1) 開式の辞
 - (2) 大学歌斉唱
 - (3) 卒業証書及び修了証書授与
 - (4) 学長式辞
 - (5) 知事祝辞
 - (6) 卒業生・修了生代表謝辞
 - (8) 「旅立ちの日に」斉唱
 - (9) 閉式の辞

その他

- ・当日午前 9 時 30 分から関係資料を体育館受付にて配布します。
- ・短期大学部看護学科としては最後の卒業生となります。

平成 25 年度島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）

卒業証書・学位記授与式について

平成 25 年度島根県立大学短期大学部卒業証書・学位記授与式を下記のとおり挙行します。お知らせします。

記

1 日時 平成 26 年 3 月 18 日（火）

9 : 30 受付開始

10 : 10 卒業生入場終了

10 : 30 開 式

〔式次第〕

開式の辞

卒業証書・学位記授与

学長式辞

来賓祝辞

表彰状伝達（2 名）※ 1

卒業生謝辞

斉唱「旅立ちの日に」（卒業生ピアノ伴奏）

閉式の辞

11 : 30 閉 式（予定）

※ 1 全国規模の団体から表彰を受けた学生に表彰状を伝達します。

2 場所 松江市殿町 158

島根県民会館 大ホール



平成26年2月12日
担当：島根県立大学浜田キャンパス
総務課：山口
TEL：0855-24-2200

島根県社会福祉協議会との災害ボランティアに関する協定の締結について

島根県社会福祉協議会と島根県立大学は、東日本大震災をはじめ昨夏の島根県西部大雨災害等への対応を踏まえて、被災者支援活動をより迅速かつ効果的なものとするため、「災害ボランティアに関する協定」を締結することとしました。

このたび、協定の締結にあたって、以下のとおり調印式を行いますのでお知らせします。

- 1 日 時 平成26年2月20日（木）11:00～
- 2 会 場 島根県立大学浜田キャンパス本部棟2階 会議室
- 3 内 容 島根県社会福祉協議会会長あいさつ
島根県立大学理事長あいさつ
協定書の調印、交換
写真撮影
- 4 協定概要 別紙のとおり
- 5 その他 調印式終了後、質疑の時間を設けております。
島根県社会福祉法人と大学の間で災害ボランティア協定を締結するのは初めてです。



島根県社会福祉協議会と島根県立大学との災害ボランティア協定の概要

1 災害時におけるボランティア活動の現状

- 戦後の日本において最大級の被害をもたらした東日本大震災をはじめ、近年地震や豪雨などによる災害が全国各地で発生している。
- 本県においても、平成 11 年の鳥取県西部地震、平成 18 年の豪雨災害、平成 23 年の豪雪災害、昨夏の県西部豪雨災害など同様に災害が頻発している。
- こうした災害時において、ボランティアが被災地の復旧をはじめ、被災者の生活支援などに対して果たす役割は大きい。
- 東日本大震災時においては、全国から約 120 万人のボランティアが駆け付け、現在も支援活動を行っている。
- 島根県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）においても、この東日本大震災をはじめ、この度の島根県西部豪雨災害時に島根県立大学（以下「県立大学」という。）と連携して被災地（者）支援活動を行ってきた。

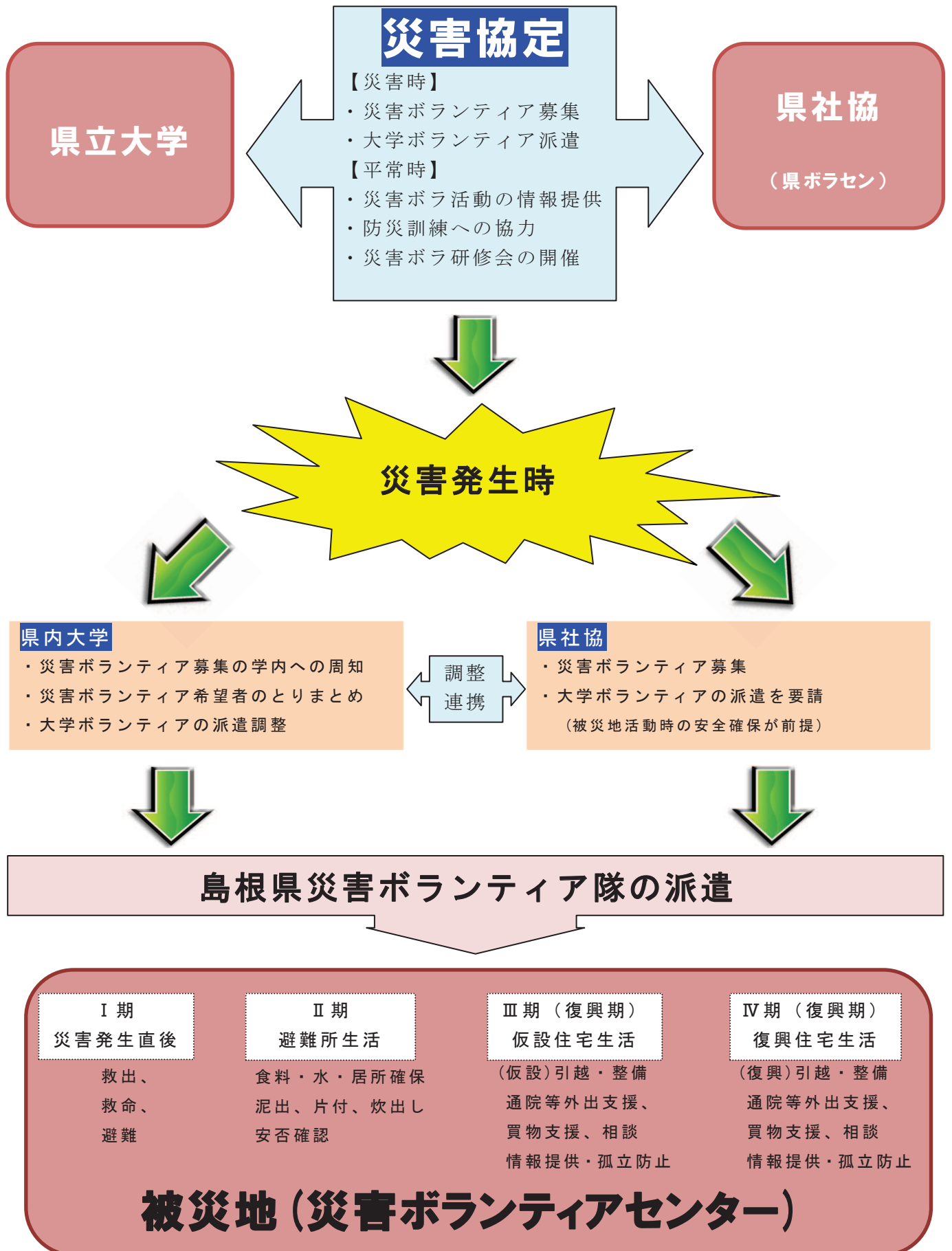
[参考]

- ・東日本大震災発災後、県社協では県民を対象とした「島根県災害ボランティア隊」を編成し、計 33 回にわたり被災地（岩手県・宮城県・福島県）へ合計 799 名のボランティアを派遣した。同隊には 300 名を越える県立大学生が参加した。
- ・県西部豪雨災害時にも県立大学から多くの学生ボランティアが参加した。

2 協定締結の考え方

- ①名称：島根県社会福祉協議会と島根県立大学間の災害ボランティアに関する協定
- ②目的：災害が発生した場合に、被災者の生活再建のための各種支援を行うボランティア活動を、迅速かつ効果的なものとするため、県社協と県立大学が相互に連携し協力するための協定を提携する。
- ③締結主体：県社協、県立大学
- ④協定内容：【災害時】
 - 1) 県社協において被災地においてボランティアによる支援が必要と認める場合に、大学に対してボランティアの募集の周知を要請する。
 - 2) この要請に基づき、県立大学側で教職員や学生に対してボランティア募集を行う。
 - 3) 現地社会福祉協議会等の要請によって被災地に赴き、現地のボランティアセンターの指示により被災地で支援活動を行う。
※派遣にあたり事前に派遣先や安全面等について十分な調整を行う。【平常時】
 - 1) 県社協は災害ボランティア活動に関する情報を大学に提供する。
 - 2) 県社協は市町村社協と連携し、ボランティアの募集情報を整理して県立大学に提供する。
 - 3) 県社協は市町村社協と連携し、県立大学が行うボランティア研修会や防災訓練の企画・開催に協力する。
- ⑤締結時期：平成 26 年 2 月 20 日（木）
- ⑥その他：学生等へのボランティア募集はあくまで大学側の裁量（判断）において行うものであり、かつ学生の自由意思に基づき活動するものである。

県立大学との災害協定について



平成26年2月12日
 担当：島根県立大学浜田キャンパス
 総務課：山口
 TEL：0855-24-2200

「きっかけバス47」への学生の参加について

47都道府県の学生たちが東北三県にバスで行くプロジェクト「きっかけバス47」（主催：公益社団法人 助けあいジャパン）に本学学生が参加しますのでお知らせします。

◆きっかけバス47概要

（1）目的

47都道府県すべてから東北へボランティアバスを出し、災害ボランティアを行うとともに、防災の重要性を学ぶ。あわせて、ホームページやソーシャルメディア、チラシなどで47都道府県に告知することで、風化防止の活動も兼ねる。

（2）方法

47都道府県から1台ずつ、合計47台のバスで東北へ向かう（島根県の参加者は、出雲空港から航空機で東京へ移動した後、バスで東北に向かう）。ボランティアバスの費用は寄付金により集める。

（3）訪問先

ボランティアバスで、岩手県：陸前高田市、宮城県：南三陸町、気仙沼市、福島県：福島市を2泊4日（車中泊1泊）で縦断する。

岩手県・・・陸前高田市（ボランティア作業を予定。作業内容は現地の状況により決定）

宮城県・・・気仙沼市・南三陸町（現地の方から被災体験と防災の重要性に関する話を聞き、町づくりワークショップを体験する予定。）

福島県・・・福島市（除染情報プラザで放射能や除染についての知識を学ぶ）

（4）活動期間

2月19日（水）～2月22日（土）

（5）事業主体

公益社団法人 助けあいジャパン

（6）連携・後援

（連携）観光庁 （後援）内閣府防災、岩手県、宮城県、福島県

※詳細は以下のHPを参照ください

<http://kikkakebus.tasukeaijapan.jp/>

1. 参加学生

女子8名

（浜田キャンパス6名（4年次2名、1年次4名）、松江キャンパス2名（2年次1名、1年次1名））

2. 出発の実施

2月19日（水） 10：45 浜田キャンパス本部棟玄関前

※浜田キャンパスの学生6名が参加します。

次第：開式

学長激励の言葉

参加学生代表者の挨拶

記念撮影

閉式



公立大学法人
島根県立大学



島根県立大学
マスコット
キャラクター
オロリン

平成26年2月12日（水）
公立大学法人島根県立大学
事務局 地域連携課
担当 槇野
電話 0855-24-2396

浜田市、益田市との共同研究成果報告会について

下記のとおり共同研究成果報告会を開催しますのでご案内いたします。

記

1 浜田市との共同研究成果報告会

①開催日時：平成26年2月14日（金） 14:30～16:00（予定）

②場 所：島根県立大学（浜田キャンパス）講義・研究棟1階 大講義室1

③内 容 等：平成25年度に取り組んだ2件の研究成果を発表します。

※詳細は別紙（浜田市記者発表資料）をご参照ください

2 益田市との共同研究成果報告会

①開催日時：平成26年2月17日（月） 13:30～16:00

②場 所：益田市立市民学習センター（益田市元町11-26） 多目的ホール

③内 容 等：平成25年度に取り組んだ4件の研究成果を発表します。

※詳細は別紙（益田市記者発表資料）をご参照ください

(別紙：浜田市記者発表資料)

平成 26 年 2 月 6 日

報道機関の皆様へ

浜田市市民政策課

平成 25 年度浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会について

このことについて、下記のとおり開催しますので、取材いただきますようお願いいたします。

記

1 日 時 平成 26 年 2 月 14 日(金) 午後 2 時 30 分～午後 4 時(予定)

2 場 所 島根県立大学 講義・研究棟 1 階 大講義室 1
(浜田市野原町 2433-2)

3 内 容 発表による成果報告

No.	タイトル	報告者
1	「水産加工業活性化に関する調査」	久保田 典男 准教授 ゼミ生
2	「港町「はまだ」を振興する産業政策」	光延 忠彦 教授 ゼミ生

4 問い合わせ先 浜田市 市民政策課 政策第二係 担当／佐々木、川村
TEL (0855) 25 - 9221 (直通)

平成25年度益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会

1. 開催趣旨

本年度より、益田市と島根県立大学は、人材育成、共同研究、知識基盤社会の諸分野において相互の協力関係を一層させ、地域社会の発展に寄与することを目的として包括連携協定を締結し、共同研究事業として、地域振興など益田市の施策に有効なテーマを掲げ、調査研究に取り組んでおり、調査研究のまとめとして、以下のとおり共同研究成果報告会を開催する。

2 主 催 益田市、島根県立大学

3 日 時 平成26年2月17日（月） 13：30～16：00

4 会 場 益田市立市民学習センター 多目的ホール
島根県益田市元町 11-26

5 次 第

1) 開 会

2) 主催者挨拶 益田市長 山本浩章
島根県立大学長 本田雄一

3) 成 果 報 告

	研究テーマ	報告者
①	萩・石見空港に対して地域が期待する要素と、それに対応した空港活用のあり方	西藤真一 講師 ゼミ生
②	温泉宿泊施設を中核とした産業振興とまちづくりに関する調査 ～地域内連携による滞在型観光地を目指して～	久保田典男 准教授 ゼミ生
③	益田市における経験型観光プランの研究	金野和弘 准教授 ゼミ生
④	ひきみボランティア制度の持続的発展と地域運営体制構築に関する調査・研究	林秀司 教授 藤山浩 教授（連携大学院） ゼミ生

4) 閉 会

平成26年2月12日(水)
公立大学法人島根県立大学
事務局 企画調整室
担当 植田
電話 0855-24-2201

学長の訪米について

この度、本田雄一学長が下記のとおり訪米しますのでお知らせします。

記

1 訪問期間

平成26年3月4日～平成26年3月10日

2 訪問先及び目的等（※訪問日は現地時間）

①訪問先：Wenatchee Valley College（ウェナチー ヴァレイ カレッジ）

訪問日：3月4日

目的：交流協定締結後の具体的な事業についての協議

②訪問先：Central Washington University（セントラル・ワシントン大学）

訪問日：3月5日

目的：留学中の本学学生の激励

③訪問先：University of Hawaii（ハワイ大学）

訪問日：3月7日～8日

目的：本学学生の異文化理解研修を視察

交流協定締結を視野に入れた今後の国際交流事業に関する協議

3 訪問団の構成

本田 雄一 学長

江口真理子 総合政策学部・教授

Craig Manning 総合政策学部・講師

植田 晃次 事務局企画調整室・主事



島根県立大学冬期日本語・日本文化研修における 浜田市立美川小学校訪問について

本学では、今年度から海外の大学生を対象に冬期日本語・日本文化研修を実施しています。

この研修は、本学への長期留学の動機付けを目的としたものです。

現在、ロシア及び韓国から10名の学生が参加し、本学の交流センターに宿泊し、日本語及び日本文化について受講しています。

この度、研修生が浜田市立美川小学校を訪問し、『総合的な学習の時間』における国際理解教育の一環として交流授業等を実施しますので、お知らせします。

日 時：平成26年2月13日（木）

10:15	美川小学校到着
10:30～11:15	6年生と交流授業
11:25～12:10	5年生と交流授業
12:10～12:50	給食
12:50～13:20	昼休み
13:25～14:40	掃除
14:40	美川小学校出発

※交流授業では、研修生が各国の文化を発表します。

参加者：研修生10名（ロシア学生8名、韓国学生2名）

小林明子 講師（島根県立大学留学生センター長）

通訳 パノフ・グリゴリーさん（ロシア語）、

キム・スウォンさん（韓国語）

※取材を行う場合は、事前に担当者までご連絡ください。

通訳について

ロシア語：パノフ・グリゴリーさん（美郷町地域おこし協力隊）

韓国語：キム・スウォンさん（島根県立大学大学院生）

【2014年2月 日本語・日本文化研修スケジュール】

		第1限 (9:10～10:40)	第2限 (10:50～12:20)	第3限 (13:20～14:50)	第4限 (15:00～16:30)	第5限 (16:40～18:10)	第6限 (18:20～19:50)	
2月1日	土	AM 入寮 施設利用説明		自由行動				
2月2日	日	市民交流(予定)			学生交流			
2月3日	月	【開講式】オリエン テーション/学内説明	日本語	日本語	学生交流	歓迎会・神楽鑑賞(有福温泉)		
2月4日	火		日本語	日本語	日本語			
2月5日	水		日本語	日本語	日本語	学生交流 (茶道体験)		
2月6日	木		日本語	日本語	日本語	日本文化 (石見神楽)		
2月7日	金		日本語	日本語	日本語			
2月8日	土	☆広島視察						
2月9日	日	松江研修へ移動			しまね国際研修館(松江)入館 オリエンテーション		夕食会	
2月10日	月	安来・松江市内観光(足立美術館・安来節演芸館・松江城・堀川遊覧船・まがたま作り等)						
2月11日	火	日本語 (料理の言葉・買い物メモ・レシピ作り)		買い物	料理		交流夕食会 (各国料理交流)	
2月12日	水	書道	着付け体験	感想発表会 出発準備	松江 → 浜田移動			
2月13日	木	日本語	☆美川小学校訪問		日本語 (振り返り)		学生交流	
2月14日	金		学生交流	風の国見学			【閉講式】送別会	
2月15日	土	ロシア:本学出発(江津市和木公民館経由) 境港発						
2月16日	日	韓国:本学出発 下関港発						

平成26年2月12日
島根県立大学出雲キャンパス
しまね看護交流センター・地域連携推進委員会
担当者：伊藤智子・大地本一到
電話：0853-20-0200

島根県立大学出雲キャンパス第3回タウンミーティング in 津和野
「暮らしを支える保健・医療・福祉と人づくり」
～この町で安心して暮らし続けるために～

1. 開催目的：「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」の実現を目指す島根県立大学（出雲キャンパス）の昨年度に続く取り組みとして、地域の現状・課題を知り、課題解決や将来ビジョンに向けた議論を通して出た意見を大学運営に反映させるため、タウンミーティングを開催します。
2. 開催日時：平成26年3月1日（土）13：00～16：00
3. 会場：津和野町民センター 大集会室（津和野町後田口66乙）
4. 主催：島根県立大学しまね看護交流センター
出雲キャンパス地域連携推進委員会
協力：津和野町（医療対策課）
5. 内容：津和野共存病院長をはじめ4名から地域の現状や課題について話題提供していただき、津和野町長をはじめ5名のパネリストを招いて「暮らしを支える保健・医療・福祉と人づくり～この町で安心して暮らし続けるために～」をテーマに意見交換を行います。今回は、話題提供者として本学学生が、パネリストとして本学専攻科修了生（津和野町健康福祉課保健師）が参加します。
6. 参加者：一般市民、高校生、看護学生、保健医療従事者
（定員100名程度）
7. 参加方法：島根県立大学出雲キャンパス又は津和野町役場のホームページに掲載するチラシにより申し込んでください。当日受付も可能です。なお、参加料は無料です。
8. その他：第1回 隠岐島前 [海士町] H24年9月（参加者42名）
第2回 益田圏域 [益田市] H25年3月（参加者40名）

島根県立大学出雲キャンパス タウンミーティング in 津和野

「暮らしを支える保健・医療・福祉と人づくり」

～この町で安心して暮らし続けるために～

島根県立大学は「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」の実現をめざしています。

町民の方々・保健医療福祉従事者、高校生、大学教職員および学生が交流し、津和野の地域特性に即した

保健医療福祉の現状・課題を知り、課題解決や人づくりにむけて相互理解を深めるために、意見交換を行います。



日時：平成26年3月1日(土) 13:00～16:00 (受付 12:30～)

場所：津和野町民センター 大集会室

対象者：一般の方々・高校生・学生・
地域保健医療福祉従事者ほか

参加費：無料

定員：100名程度

主催：島根県立大学出雲キャンパス
しまね看護交流センター・地域連携推進委員会

共催：津和野町医療対策課

プログラム

発表内容

1. テーマ：「津和野町における地域包括医療・ケア」
須山信夫氏（津和野共存病院院長）
2. テーマ：「フィールド学習に参加して」
井原奈緒（島根県立大学出雲キャンパス2年次生）
3. テーマ「看護を学んで考えること」
益井みづき（島根県立大学出雲キャンパス3年次生）
4. テーマ「島根の地域特性と看護教育」
山下一也（島根県立大学出雲キャンパス副学長）

パネルディスカッション

コーディネーター：伊藤智子（島根県立大学出雲キャンパス）
パネリスト

1. 「津和野町における保健医療福祉政策」
下森専之氏（津和野町長）
2. 「生活支援サービスと医療の連携」
桑原泰彦氏（津和野町特別養護老人ホーム施設長）
3. 「看護職・介護職の連携と包括ケア」
喜島悦子氏（津和野共存病院看護部長）
4. 「支援する会のとりのくみ」
大中八臣氏（津和野町の医療を守り支援する会代表）
5. 「保健師としてのキャリアアップ」
西藤絢子氏（津和野町健康福祉課保健師、
出雲キャンパス専攻科修了生）

〒693-8550 出雲市西林木町 151
島根県立大学出雲キャンパス
TEL:0853-20-0200
FAX:0853-20-0201



**島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)
 平成26年度前期科目等履修生・聴講生の募集について**

平成26年度前期科目等履修生及び聴講生を以下のとおり募集します。

科目等履修生は、一般の学生と同じ講義を受講し、履修科目の試験に合格すると単位を取得できる制度です。

聴講生は、一般の学生と同じ講義を受講することができ、単位認定の必要がない方や教養を深めたい方に適した制度です。

科目等履修生・聴講生の方は、受講したい科目を1つ又は複数選ぶことができ、パートタイムで学習できます。

1. 受講期間 平成26年4月1日(火)～平成26年9月30日(火)

2. 募集人員 各科目若干名

3. 応募資格 次のいずれかに該当する者

【科目等履修生】

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

【聴講生】

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 高等学校卒業程度の学力を有する者

4. 出願期間 平成26年2月17日(月)～平成26年2月21日(金) 必着

5. 費用(入学検定料) 科目等履修生…9,800円, 聴講生…なし

6. 応募方法 募集案内をお取り寄せのうえ、出願方法に従い応募してください。
 (募集案内請求先)

〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2

島根県立大学短期大学部松江キャンパス教務学生課

TEL：0852-20-0216

※本学ホームページからも取得可能です。

トピックス「平成26年度前期科目等履修生・聴講生の募集について」からお入りください。
 URL：http://matsuec.u-shimane.ac.jp/

7. 問い合わせ先

所属 島根県立大学短期大学部松江キャンパス教務学生課

電話：0852-20-0216 FAX：0852-21-8150

電子メール：gakumu@matsuec.u-shimane.ac.jp

8. 過去の科目等履修生・聴講生の入学状況

	科目等履修生		聴講生	
	前期	後期	前期	後期
平成22年度	0名	0名	3名	3名
平成23年度	2名	2名	0名	2名
平成24年度	0名	0名	0名	3名
平成25年度	1名	3名	0名	0名